

タイトル：早期萌芽性アスパラガス新品種「さぬきのめざめ」

要約

アスパラガス「さぬきのめざめ」は単交配による交雑品種である。半促成長期どり栽培において「ウェルカム」に比べて春芽の萌芽が極めて早く、若茎頭部のしまりが良好で収量性も高い。

キーワード：アスパラガス、さぬきのめざめ、交雑品種、半促成長期どり栽培

担当機関：香川県農業試験場 生物工学担当 三木試験地

連絡先：087-889-1121

区分(部会名)：近畿中国四国農業

分類：技術、普及

背景・ねらい

香川県におけるアスパラガス品種は「ウェルカム」が中心であり、半促成長期どり栽培で1月から10月まで収穫されている。近年、端境期を中心に輸入品が増加しており、収穫期間の拡大が望まれている。そこで、本県の気候風土に適した付加価値の高い品種を育成する。

成果の内容・特徴

1. 「さぬきのめざめ」は香川県農業試験場において、選抜した雌株「No.17」を母親に雄株「No.16」を父親に用いた交雑品種である。1998年4月に交配し、1999年12月～2002年4月にかけて半促成長期どり栽培での特性調査を行った。その結果、調査期間の3か年を通じて早期萌芽性、多収性、若茎頭部の開頭が遅いこと等の特性が安定しており、新品種としての実用性のあることを確認して、2002年4月に育成を完了した。
2. 「ウェルカム」と比較して、立茎時の草丈、茎の第1側枝高はやや高い。収穫若茎は茎色がやや淡緑、茎のアントシアンが発現がやや多く、茎数が多い。若茎頭部の色は緑、頭部のしまりは緊、開頭の早晩は晩である(表1、図1)。
3. 低温要求性は低く、萌芽の早晩は極早生、越冬性と低温伸長性は高い(図2)。なお、茎枯病、斑点病、立枯病に対する病害抵抗性は同程度である。
4. 保温開始後の収穫開始要日数が株年生に関わらず1週間程度早く、収量性も高い(表2)。

成果の活用面・留意点

1. 適応地域は瀬戸内の温暖な地域及びそれに準ずる地域とする。
2. 半促成長期どり栽培に適応する。
3. 保温開始時のアザミウマ、ハダニ等の発生に留意する。
4. 茎枯病、斑点病、立枯病対策のためビニールハウス等による雨よけ栽培を行う。

具体的データ

表1 「さぬきのめざめ」の半促成長期どり栽培作型における生育特性(2001年)

品種名	草丈 (cm)	茎径 (mm)	第1側枝高 (cm)	節間長 (cm)	茎数 (本)	種子重 (g)	雌株の割合 (%)
さぬきのめざめ	300	11	76	20	26	2.8	51
ウェルカム	275	11	65	17	19	2.2	53

生育特性調査は昭和58年度種苗特性分類調査報告書のアスパラガス特性審査基準に準じて行った。

表2 「さぬきのめざめ」における春芽収量及び夏芽の若茎品質(1999～2001年度)

品種名	収穫要日数	平均収量 (g/株)	平均本数 (本/株)	上物率 (%)
さぬきのめざめ	11.6	699.4	33.1	89.6
ウェルカム	19.0	522.4	20.7	75.0

保温方法：ビニール内張りによる2重被覆

収穫要日数：ビニール被覆後25cm以上の若茎が収穫できるまでの日数

平均収量、平均本数：春芽(12～3月)の収量特性

上物率=(収穫本数-異常本数)/収穫本数×100とした夏芽(7～8月)の若茎特性



「さぬきのめざめ」

「ウェルカム」

図1 「さぬきのめざめ」の若茎品質



「さぬきのめざめ」



「ウェルカム」

図2 「さぬきのめざめ」の萌芽特性（保温開始10日目）

研究課題名

1. バイオテクノロジーに関する特別研究 2. 特色ある本県独自野菜・花き品種の育成

予算区分

県単

研究期間

1989～2002

研究担当者

古市 崇雄、大矢 啓三、池内 隆夫

品種出願（登録）

品種登録出願 第14835号（2002年7月8日）古市ら（2003）香川農試研報（投稿

発行年度

2002

収録データベース

[研究成果情報](#)